

災害法医情報歯科学実習（山田良広）

Training of Odontology for Disaster Relief Information of Forensic Medicine
(Yoshihiro Yamada)

キーワード

- ① 災害医療
- ② 災害歯科医療
- ③ 横須賀・湘南地域災害医療歯科学研究センター
- ④ 災害時口腔衛生・保存・補綴治療
- ⑤ 生前の歯科およびDNAのデータベース

授業概要

災害時における対応は、各フェーズごとに内容が異なり、さらに実践力が必要である。本実習ではフェーズ後半に必要な事項として、歯科法医学的な実践力を身につけると同時に課題を抽出し、課題解決に向けた方法論を学ぶ。特に、身元確認作業や最新の記載方法としてデジタル化が進んでいる電子ペンを用いたデンタルチャート実習を行い、デジタル化した法医情報をとりまとめる素養を身につける。さらに、DNA鑑定の基本的な解析とデータベースの構築についても実習する。

授業科目の学修目標

歯科による災害時医療と歯の生前資料を用いた身元確認作業は東日本大震災を契機にその重要性が広く認識された。災害時の歯科医療は保存・補綴あるいは口腔外科など分野にとらわれない治療が求められる。それらの基本的な技術は学部ですでに習得済みであることを前提として、災害時に必要な迅速性や簡便性などの特殊性をもつ治療を、さらに身元確認については学部では知識と机上での実習にとどまっていたが、大学院では実際に遺体からの所見採取を体験する。最終的にこれらの実習を通じて災害時歯科医療に必要な情報をデジタル化を含め包括的に修得することを目的とする。

授業計画

- ① 災害歯科医療の研究計画立案実習 12コマ
- ② 地域災害計画とセンターの連携のシュミレーション実習 6コマ
- ③ 災害時の保存・補綴・口腔外科実習 12コマ
- ④ 災害時の口腔ケア実習 12コマ
- ⑤ 身元確認実習 9コマ
- ⑥ データベース構築実習 9コマ

実習担当教員 山田良広 大平寛 山本伊佐夫 長谷川巖

教科書および参考書

1. 法歯科医学、高橋雅典監修・山田良広他編、永末書店
2. 災害時の歯科保健医療対策 中久木康一編集

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、実験プロトコルを指導教員に確認をし、理論を熟知して実習に臨むこと。
ご遺体には最大限の敬意を表すこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 問題点を発見し災害医療歯科学的な研究計画の立案ができる。
- ② 地域災害計画を理解し、センターの有効な連携のシュミレーションが立案できる。
- ③ 災害時の保存・補綴・口腔外科の理論と手技を実践することができる。
- ④ 災害時の口腔ケアの理論と手技を実践することができる。
- ⑤ 身元確認作業のコーディネートを実践することができる。
- ⑥ データベース構築を実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
20%	0%	40%	0%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、総論各論の5項目について課題を提出する。8%×5回=40%
- ・実技は、授業計画の①②はプロダクト達成度を③④⑤⑥について技能判定を行う。8%×5回=40%

理想的な達成レベルの目安

災害法医情報歯科学実習の達成レベルは80%以上とする。特に、身元確認作業に関しては100%を求める。